

登録番号 事業所名	取組の感想（平成23年度）	取組の感想（平成22年度）	取組の感想（平成21年度）
第18-0001号 綾瀬市商工会	事業所内のOA関連用品の使用量削減への取り組みやリサイクル品の使用により少しずつですが、環境負荷の削減に努力しております。節電については、本会の取り組み内容になっていませんが、努力を重ねております。 会員に対し、缶のプルタブとペットボトルのキャップの収集協力を依頼しており、プルタブの回収は、平成24年3月末現在で234キロ、23年度1年間で104キロの回収となりました。プルタブは換金後、車椅子を購入し社会福祉協議会に寄付する予定です。ペットボトルのキャップの回収は、平成23年度1年間で80キロとなり、エコキャップ推進協会へ提出いたしました。 また、会館内に設置した自動販売機は、緑の募金に対応しており、23年分の売上金の一部が自動販	環境負荷の低減に一定の効果があったと思います。節電については、本会の取り組み内容になっていませんが、より一層の努力をしたいと思います。平成21年度から手掛けているプルタブの回収は、平成23年度3月末現在で134キロになりました。	微力な努力ですが、環境負荷の低減に一定の効果があったと確信しています。また、平成21年度からペットボトルキャップ及びリングブルの回収を手掛けています。
第19-0001号 橋本鉄鋼㈱	年々、従業員がエコに対しての考えを深めていると思います。 今後は、今以上にエコに対する環境に組みたいと考えております。	前年度より引き続き、OA用品中心に使用量削減・リサイクル推進に取り組んでおります。トナー・用紙などのOA用品は再生品を選んで購入し、使用済み品のリサイクル回収サービス付を優先して選ぶ、取組みテーマ以外でも不要な照明の消灯や空調の使用を控えるなど、環境負荷低減への取組みは従業員のみに定着しつつあると思います。小さな力ではありますが今後も少しでも多くの努力を続けて行きたいと思	環境負荷に対する考えを従業員一人ひとりが考えるようになり、少しずつですが、成果が出て来ていると思います。今後も、今以上にエコに対する環境に組みたいと考えております。
第19-0002号 小田急藤沢ゴルフクラブ	小田急藤沢ゴルフクラブにおいて、クラブハウスのLED化を段階的に実施しており、お客様スペースのほとんどはLED化が終了いたしました。併せて、デマンドの上昇を防ぐために電力の使用状況を監視し、電力の使用先をこまめに調整しております。 ゴルフ場特有のものとして、芝、落ち葉などを堆肥化し、コースに散布、除雪時の融雪剤として使用しております。また、昨年大型台風により生じた大量の折れ枝についてもチップ化し、コース内で使用するなど資源の再利用を図っております。	平成22年4月に新規オープンしたゴルフ練習場の照明器具（ナイター照明を除く）にLEDを導入しました。また、平成22年3月末に藤沢ゴルフクラブハウスのダウンライトを全てLEDに交換しており、来年度は交換箇所の電気量70%程度の削減効果を見込んでおります。また、夏期においては瞬間最大使用電力とともに、月次消費電力総量も15%以上の削減に取り組んでまいります	19年から継続的に続けてきた環境負荷削減効果が認められ、平成21年度エネルギー管理優良事業所表彰にて関東経済産業局長表彰を受賞いたしました。今般神奈川県地球温暖化対策企画（素案）もあり、これまで以上の環境負荷軽減に努めていきます。
第19-0003号 ㈱ワイ・ケー電子	廃棄物の排出抑制および地球温暖化対策について、全社員の理解と協力があって取り組みの成果を出す事ができた。特に、1. 紙の使用量抑制 2. デマンド監視での電気の節電 3. 電気自動車、ハイブリットカー購入による省エネルギー化 4. 工場敷地内の緑化 等、環境に配慮した活動を実施できました。 更に改善を進めるためには、1. ペーパーレス化、2. 発電システムの導入、3. マイカー通勤の削減 等の課題がありますが、出来ることから取り組みを進め成果向上を目指します。		
第19-0004号 ㈱加藤自動車	平成24年夏は異常気象により暑い日が長期に渡りクーラーの使用が多かった。通年はなるべく使用していない。		全体には守られていると思います。室温に対してはつい高温になったり、低めにしたりしてしまいがちだった。
第19-0005号 ㈱横浜製作所	電気の使用量の削減については、昨年度の電力不足に備えるために、事務所等の照明を蛍光灯・白熱電球からLEDへ、工場の水銀灯をセラメタランプへ交換、省エネタイプのエアコンを購入。また、窓ガラスには断熱フィルムを貼るなどして新たな節電対策を実施しました。廃棄物については、設定した排出量の目標値をおおよそ達成することができました。昨年から取り組み始めた本来業務の環境改善については、少しずつですが環境負荷の低減を目指し、取り組み	電気の使用量はデマンド警報装置による「見える化」などにより削減、廃棄物の排出量についてもH22年度も削減することができました。H23年度からは電気の使用量の目標値を今までの使用量から稼働時間単位に変更しました。また、製造の不適合に関わる電気の使用量、廃棄物の排出量について今回回収したデータを基づき目標値を設定し、本来業務を環境改善の手段として活動していきます。	電気の使用量、廃棄物の分別を徹底することによる排出量の削減について、3年計画の削減目標を達成することができました。地域活動としては、地区清掃に3回、延べ13人が参加しました。今後とも地域と一体となった環境活動として、地区清掃活動に積極的に参加していきたいと思います。また今年ISO14001認証取得3年目をむかえ、新たに本来業務である製造に関する不適合を削減することにより電気の使用量、廃棄物の排出量の削減を目標とし活動
第19-0006号 ニイクラ電気㈱		NOなしの、充電式電池の使用は、社内に定着してきた為今回の取り組みより外します。NO、0101103の事務所のペーパーレス化についてはチェック、メモなどをする場合においてペーパーのほうが都合がよく、またココヨ等の紙ファイルにしたほうが全体を手早く見る事が出来たりしてペーパーレス化はなかなかむづかしい。引き続き工夫をしてみる考えです。 NO、010301のゴミの分別に関しては定着してきましたので取り組みより外します。 NO、070401の省エネルギー型の商品を販売することについては、今回の電力不足も加えて蛍光灯の省電力型やLED照明器具を宣伝している。NO、080106の消灯部分点検については今回の電力不足に対し	電子メディアの利用により、ペーパーレス化は書類の保存上困難な場合があるので、今後の課題となっています。社内の充電式の電池は約9割使用まで行きました。一昨年から比較すると、乾電池の廃棄が大きく削減でき、取組の成果が出たと思います。ゴミの分別には力を入れているので、このまま引き続き取り組んで行きたいと思います。
第19-0007号 ㈱加藤工務店	現在、産廃業の方に分別を教わり分別種類の更なる細分化に取り組んでいますが、細かく分けると素材の見分け方が難しく苦慮しています。		全体には守られていると思います。室温に対してはつい高温になったり、低めにしたりしてしまいがちだった。
第19-0008号 ㈱ラテン大和	前年度から取り組んでいる事は、更に強化し、新しい取組も増やして、と考えていましたが、欲張り過ぎた様で、中途半端に終わってしまった事もあります。 1つ1つを確実にしていきたいと考えています。 取組の中でもエコと同時に経費削減ができ、喜ばしくもあります。	前年度に引き続き、細かな事から実施し、社内エコ意識改革を強化出来ました。結果、経費削減に繋ぐ事が出来たと思えます。東日本大震災後、今まで以上に「節電」を考える様になり、見落としがちな部分の見直しも出てつづつあります。今後各々の目から始め、全体に繋げられる様、努力して参ります。	昨年度は不況がまだまだ続く中、経費の見直しを徹底的に行う年でした。資金的に圧迫する設備投資（エコに関する）はできませんでしたが、経費を見直すことにより、エコ精神が養われたと思っています。そして、地球を冷やす為に小さな力ではありますが、大きな力になりまよう願っています。
第20-0001号 相鉄バス㈱ 綾瀬営業所	車両の代替につきましては、引き続き低公害高燃費アイドリングストップ車、さらに排ガスのクリーン化に役立つ尿素バスの導入を進めております。 節電、節水などが数値へ明確に現れており、社員の環境への改善意識が継続されております、引き続き限りある資源の節約に努めるよう周知行動してま	車両の代替につきましては、引き続き低公害アイドリングストップ車の導入を進めております。社用車も軽自動車を導入しています。 大震災の影響もあり、節電、節水など今まで以上に社員の環境への意識向上につながっていると思われま	車両の代替につきましては、低公害アイドリングストップ車の導入を進めております。取り組みを通じて環境問題を身近に感じ、「まず自分たちができること」を考えて各家庭でも行動を起こすきっかけになればと思います。
第20-0002号 ㈱メイコー	昨年の主な取組としては、前年度に引き続き、廃液（酸系）の自社処理の実現を図り、工場から排出される、廃液の90%の自社処理が可能となりました。その他神奈川県からの紹介で、廃棄物交換システムに参加し、木くず（木製パレット）を再利用してくれる市内の業者へ無償でお分けし、産廃削減に取り組ましました。 また昨年は震災の影響により、電力ピークカットを当社も実施しましたが、空調機の設定温度を上げ、作業環境を損なわない工夫で、空調服（ファン付作業服）を採用し、電力削減の取組を実施しました。（神奈川県環境保全協議会の誰でもできる環境活動に掲載されました）	昨年の主な取組としては、産廃処分費の80%を占有していた、廃液関係の自社処理を実現することでありました。構想に1年以上かけ、なるべく初期投資をおさえ、なおかつ最高のパフォーマンスを得られるものを選定いたしました。まず7月にE棟で運用開始し、十分実用可能と判断し、残りの棟の廃液処理も2月から稼働を開始し、全廃液の80%の処理が可能となり、5年前の処分量を約1/5まで低減することができました。あわせて、廃プラの分別強化も実施し、着実に低減することができました。この成果は担当者だけの活動ではなされるものではなく、全従業員が「ゼロミッション」への取組を理解してもらったことが大きいと感じ、当社の意識も向上してきたものと感じておりま	登録初期の頃は、個々においてエコ活動は行ってきたが、統制のとれた活動ではなかった。直近の活動は経営トップ・工場トップの号令の元、組織だった活動へ変革していき、省エネの目標・廃棄物削減の目標も数値化されてきている。それに伴い個々の活動であったものが、組織化されてきたのが実感できる。具体的事例としては、以前は廃プラスチックのコンテナに無分別で放り込まれていた雑多な廃棄物が、資源物の分別を強化・徹底し、昨年度比で、廃棄物処理コストの30パーセントの低減に成功しました。

登録番号 事業所名	取組の感想（平成23年度）	取組の感想（平成22年度）	取組の感想（平成21年度）
第20-0003号 ㈱東牧土木	引き続き実践しております。日常的に定着してきました。 車両代替えについては、予算上中々実践出来ずにあります。	引き続き実践しております。昨年の夏は壁掛け扇風機を購入し、エアコンの設定温度は28℃で過ごしました。今回は新しい目標を追加し、さらに節電を心がけ、環境負荷を低減できるよう努力します。	引き続き実践しております。資源のリサイクル化については、定着してきました。地球温暖化防止対策（冷暖房設備の適正）については、事務所等の設備、環境等の状況上、中々難しいものがあります。
第20-0004号 ㈱ネエチア	昨年発生した東北地方太平洋沖大地震を受け、事務所内の電気使用の見直しを行いました。業務遂行上、支障が無い範囲で蛍光灯の間引きを行い、退社時や外出時にPC等の待機電力のカットを行いました。 今年7月からの東京電力による電気料金の値上げを考慮し、現在の当社の取り組みを省エネ診断士に診断をしていただきました。その結果、現在のインフラでは、これ以上の削減は難しいとの回答を得ました。ただし、動力（特に、エアコン）の運用に関しては、政府推奨のエアコン使用温度を参考にする等の改善の余地があります。とアドバイスをいただきました。 次年度は、概ね昨年と同程度の省エネ活動を引き	昨年度行った環境意識向上を目的とした、社内ディスカッションでの案を出来る範囲からであるが実行した。（緑のカーテン）また、電力消費量の低減をさらに推進するため、待機電力の削減、OA機器の設定変更等を社内に周知徹底し全社的に実施。印刷ミスを低減し紙の使用量をさらに削減すべく、複合機の入替えを行い数値取りを現在行っている。	業務効率改善による環境負荷の低減をISO14001の目標に落とし込み、少しずつではあるが、低減・改善に取り組めたと思う。 また、昨年度より環境意識向上を目的とした、社内ディスカッションを行い始めました。
第20-0005号 ㈱青柳商店	昨年までの取り組みに加えて、車両の買換え時期に伴い、 低燃費車の導入を検討し、結果、導入に至り、期待以上の成果が上がった。 今後も車両の買換え時には、低公害車・低燃費車の導入に努めたい。	配送トラックのルート効率の見直しによる石油燃料消費の取り組みは効率化の頭打ちが見え始めたように感じる。昨年後半より、予てより取り組んでいた、市場自動販売機機器の年式の若返りによる、消費電力削減に更に力を入れた。3月11日に発生した東日本大震災による電力供給量の低下により、消費電力の削減が各企業にて急務となっている。今後はエコの概念のみに捕らわれない消費電力の面での環境活動への取り組みが必要になると思われる。	
第20-0006号 ㈱山勝	当社はISO14001の取組みの中で燃料使用量の削減や工場設備の電気使用量の削減を恒常的に取り組んでいる。 今回は前年比で電気使用量は増加の結果となった。これは建設物解体現場からの鉄スクラップの入荷量増加に加えて、第5工場が新たに稼働した事に起因するものと判断している。		当社はISO14001の取組みの中でガソリン使用量の削減や工場設備の電気使用量の削減に取り組んできた。今回は前年比で微減の結果となった。リーマンショック以降の景気の底入れや従前から削減に取り組んできたため、数値上の削減幅は漸減している事に起因するものと判断している。
第20-0007号 ㈱栄和産業	「あやせエコっと21」登録年度から引き続きコストの削減、リサイクル化、節電を考える取組みを行っています。 毎朝デマンド値のグラフを見て前日の電気使用量を確認し、変化があれば全員に周知しました。 今できる事を随時取入れて、環境負荷の低減、環		昨年から引き続きコストの低減、リサイクル化、電気の使用量を把握し無駄のない使用法を考える取組みの中で21年度はゴミの少量化に重点を置きました。ダンボールと軍手の再利用を行った事で焼却ゴミの量が減少し環境負荷低減に繋がったと思います。
第20-0008号 ㈱タズミ	平成23年度も継続して、焼却されていた廃棄物の燃料化の推進を進めた。自治体からの一般廃棄物や食品系製造事業所からの産業廃棄物等の燃料化を推進し、平成23年度は9,060トンの燃料になった。 また、環境負荷低減(地球温暖化防止対策等)の取組みとして、エコドライブの強化により、各車両で燃費が向上し、前年比較で2,494ℓの軽油の節減(H23年度の燃費で、H22年度の距離を走行した場合の減った軽油量)につながった。	景気低迷の折、産業廃棄物の扱量は依然低水準を推移する環境下、高座三市及び清掃施設組合で推進している、焼却ごみ量の資源化、「事業系一般廃棄物の燃料化」の取り組みを、色々なキャンペーンを組み合わせ実施してきた。結果、高座三市内で、年間220トン超の事業系一般廃棄物を新たに、焼却から燃料化する事が出来た。これは47ha、本数では4万7千本の杉林を一年間保全したのと同等の効果で、約450トンのCO2の排出抑制をする事が出来た。更に当社全体では8,995トンの燃料を販売・利用して頂いたの、約19Kmの森(約189万本)の杉の森を保全した(約1万8千トンのCO2の排出抑制をした)効果を得る事が出来た。しかしまだまだ焼却せずに燃料化出来る廃棄物があるので、平成2	環境負荷の低減のため、会社を上げて可燃ごみの燃料化を推進しています。昨年度は、約8,800トンの燃料を生産出荷し、重油換算で6,160キロリットル(ドラム缶で約30,800本分)使用量の削減を達成しました。綾瀬市の事業所のごみや、一部は、綾瀬市民のごみも、焼却場で燃すことなく、弊社でリサイクル燃料となっています。今後も、事業活動に伴って発生する環境負荷の低減に地道に取り組む、地域の環境保全に少しでも役立つよう頑張ります。
第20-0009号 ㈱デザインルーム	意識して環境負荷を考えて業務を行うと結構無駄があったことに気づき、 経費削減にも役に立った。	昨年より、引き続き行ってきた使用済み用紙の裏紙利用や、照明の使い分け等継続してきた結果、自然とそのような事が身に付き、しっかりと実行できていると思います。また経費削減にもつながるので、引き続き行っています。	
第20-0011号 ㈱藤井建材		リサイクルについては、いつも頭において以前よりもだいぶ意識できるようになった。アイドリングストップは実践できていない。	資源のリサイクルなるべく取り組むようにしている。アイドリングストップはエンジンの始動などに手間取ることがあるためほとんどできなかった。
第20-0012号 エコプラザ綾瀬	続けられる事とつい忘れてしまう事が見受けられたので、また一つ一つの向上に努めていきます。	今年は、取組が定着し始めた。	従業員が皆、できることは自然と取り組み始め、定着までもう一息。
第20-0013号 ㈱協和商事	3年目位の取り組みですが、だいぶ社内へ浸透しております。継続する事が大事ですので引き続き新たな取り組みも入れながら続けていきたい。		
第20-0014号 ㈱野中工業	出来ることから進めています。まだまだ社内では課題も多く社員一丸となって今後も取り組み続けたいと思っています。		
第21-0001号 ㈱KYOEI	1人1人が意識なくても無駄のないように物を使用したりするようになってきたが、毎回同じ取組なのでできたりできなかったりとムラがある。 これにはどこにも負けない自信があるというものを1つ作りたい。	物の再利用はもちろん、ゴミ自体を出さないよう一人一人心がけ、取り組めた。昨年度同様節電を心がけました。今年度の夏は非常に蒸し暑かったのですが、室内温度・湿度の管理等工夫節電に取り組めた。	目標を達成できるよう従業員1人1人取り組む事ができ、昨年度に比べても良い結果を出たのではないかと思います。特に節電に関しては、思った以上の結果を出すことができたので、引き続き取り組んでいきたいです。
第22-0001号 ㈱紺野企業	当事業所では、継続的に行われているエコアクション21の環境活動の中で主に燃料使用量の削減や工場設備の電気使用量の削減並びに排出抑制のための紙の使用量の抑制に取り組んでまいりました。燃料使用量に関しては、車両の増車に伴う低公害車、低燃費車の導入を行い、ガソリン使用量の削減に努めています。工場設備の工場、倉庫の増設に伴い電気使用量を削減するためスマートメーターを導入し、使用量の把握とともに削減を行っています。紙の使用量の排出抑制のために使用済みの用紙の裏紙使用。両面印刷の徹底を行っています。今後は、さらなるCO2削減とカーボンオフセットの導入を検討		
第22-0002号 横浜乳業㈱	昨年度は電気事業法に基づいた電力使用制限令が出され、省エネに対する意識を深める年でした。従業員ひとり一人が積極的に節電活動に取り組み、電力使用量の削減に成果を残すことができました。 今後も環境負荷低減に努めていきます。	昨年度は猛暑の為、冷凍機負荷の増大、ガスコージェネの運転効率の悪化等、省エネ活動(冷蔵庫の2重トビラ、蒸気配等の保温カバー取付、照明間引き等)の効果を上回るエネルギーの使用となってしまった。	
第22-0003号 ㈱川崎製作所	震災後からの電力事情を社員全員が意識し、節電に対する取組がなされている。(不使用の設備の主電源オフ、クーラーは午前中は不使用など) 今後もエコアクション21と平行して、環境負荷の低減、資源の有効活用に努めていく。		